

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 7 部門第 3 区分
 【発行日】平成 28 年 11 月 17 日 (2016.11.17)

【公開番号】特開 2015-103822 (P2015-103822A)
 【公開日】平成 27 年 6 月 4 日 (2015.6.4)
 【年通号数】公開・登録公報 2015-036
 【出願番号】特願 2013-240478 (P2013-240478)
 【国際特許分類】

H 0 4 R 1/00 (2006.01)

【F I】

H 0 4 R 1/00 3 2 8 A

【手続補正書】

【提出日】平成 28 年 9 月 28 日 (2016.9.28)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】請求項 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【請求項 5】

請求項 1 ないし 4 のいずれか一項に記載のマイクロホンスタンドであって、

前記第一および第二の筒状パーツのうち、前記マイクロホンスタンドの起立状態において上側に位置する筒状パーツの各側面には、前記マイクロホンの筐体角部が挿入される第三の切り込みが形成され、

前記マイクロホンは、矩形上の筐体台座を備えており、当該筐体台座の角部が前記第三の切り込みから外側に突き出すようにして、前記第三の切り込みが形成された筒状パーツの内側に配置される

ことを特徴とするマイクロホンスタンド。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 8】

図 3 (A) ~ (D) に示すように、最上段連結パーツ 1 の上端部には、4 つの側面 1 4 A ~ 1 4 D のそれぞれに 1 つずつ、それぞれの側面 1 4 A ~ 1 4 D の幅方向に沿ったマイクロホン保持スリット (切り込み) 1 5 A ~ 1 5 D が形成されている。これらのマイクロホン保持スリット 1 5 A ~ 1 5 D は、起立姿勢のマイクロホンスタンド 1 0 0 においてほぼ同じ高さに位置付けられ、互いに異なる稜線 1 6 A ~ 1 6 D の位置から、それぞれの側面 1 4 A ~ 1 4 D の軸心方向の中心線 1 7 A ~ 1 7 D を超える位置まで伸びている。これらのマイクロホン保持スリット 1 5 A ~ 1 5 D の内部には、それぞれ、最上段連結パーツ 1 の上端部内側に挿入された音響特性測定用マイクロホン 7 の筐体台座 7 1 の角部 7 4 A ~ 7 4 D が挿入される。そして、音響特性測定用マイクロホン 7 のがたつきを防止するため、各マイクロホン保持スリット 1 5 A ~ 1 5 D を囲む切り口 (縁部) には、それぞれ、音響特性測定用マイクロホン 7 の筐体の形状に応じた位置に、音響特性測定用マイクロホン 7 の筐体が係合する切り込み 1 2 A ~ 1 2 D が入れられている。例えば、本実施の形態においては、音響特性測定用マイクロホン 7 の筐体が四角錐形状を有しているため、各マイクロホン保持スリット 1 5 A ~ 1 5 D を囲む切り口には、対応する側面 1 4 A ~ 1 4 D の軸心方向の中心線 1 7 A ~ 1 7 D の位置に、上方に向かう三角形の切り込み 1 2 A ~

1 2 D が入れられ、これらの切り込み 1 2 A ~ 1 2 D に音響特性測定用マイクロホン 7 の筐体の各稜線部 7 3 が係合するようになっている。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 9】

また、最上段連結パーツ 1 には、最上段連結パーツ 1 の上端面（上端部側の開口を囲む縁部）からいずれか 1 つのマイクロホン保持スリット 1 5 A ~ 1 5 D（ここではマイクロホン保持スリット 1 5 A）につながるコード挿入用スリット（切り込み）1 8 が、このマイクロホン保持スリット 1 5 A の一方の端部が位置する稜線 1 6 A に沿って形成されている。最上段連結パーツ 1 の上端部内側に音響特性測定用マイクロホン 7 を挿入する際、音響特性測定用マイクロホン 7 の所定の台座角部 7 4 A から引き出されたコード 7 2 は、最上段連結パーツ 1 の上端面側からコード挿入用スリット 1 8 を介してマイクロホン保持スリット 1 5 A に挿入される。このとき最上段連結パーツ 1 の上端面側からコード挿入用スリット 1 8 内にコード 7 2 をスムーズに導入できるように、コード挿入用スリット 1 8 両側の 2 つの側面 1 4 A、1 4 B の角部が、最上段連結パーツ 1 の上端面から稜線 1 6 A に対して斜めに切り落とされ、コード挿入用スリット 1 8 のスリット幅が、最上段連結パーツ 1 の上端面側において広げられている。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 0】

最上段連結パーツ 1 の各稜線 1 6 A ~ 1 6 D に対応する角部のうち、コード挿入用スリット 1 8 が位置する角部以外の角部（本実施の形態においては、コード挿入用スリット 1 8 が位置する角部に対向する角部）には、起立姿勢のマイクロホンスタンド 1 0 0 においてマイクロホン保持スリット 1 5 A ~ 1 5 D よりも下方の位置にマイクロホン固定用スリット（切り込み）1 0 が形成されている。このマイクロホン固定用スリット 1 0 は、最上段連結パーツ 1 の稜線 1 6 C と交差し、この稜線 1 6 C 両側の側面 1 4 C、1 4 D においてほぼ水平方向に伸びている。マイクロホン保持スリット 1 5 A の内部に収容された音響特性測定用マイクロホン 7 の台座角部 7 4 A から引き出されているコード 7 2 は、最上段連結パーツ 1 の稜線 1 6 C に対応する角部からマイクロホン固定用スリット 1 0 内に挿入され、連結パーツ 1 の軸心に向けてこのマイクロホン固定用スリット 1 0 の両端部まで押し込まれる（図 3（D）参照）。ここで、マイクロホン固定用スリット 1 0 は、音響特性測定用マイクロホン 7 のコード 7 2 の径よりもやや狭いスリット幅を有しており、マイクロホン固定用スリット 1 0 の切り口には、マイクロホン固定用スリット 1 0 の両端部の位置に、上方向に向かう切り込み 1 3 が入れられている。このため、マイクロホン固定用スリット 1 0 の両端部まで押し込まれたコード 7 2 は、これらの切り込み 1 3 内にしっかりとくわえ込まれる。これにより、コード 7 2 がこれらの切り込み 1 3 に把持されるため、マイクロホン固定用スリット 1 0 からのコード 7 2 の抜け出しが防止される。また、マイクロホン固定用スリット 1 0 の上下において、最上段連結パーツ 1 の稜線 1 6 C に対応する角部が、マイクロホン固定用スリット 1 0 に対して斜めに切り落とされ、マイクロホン固定用スリット 1 0 のスリット幅が、最上段連結パーツ 1 の稜線 1 6 C 側において広げられている。このため、最上段連結パーツ 1 の稜線 1 6 C に対応する角部からマイクロホン固定用スリット 1 0 の内部に、コード 7 2 をスムーズに案内することができる。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】 0 0 2 1

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 2 1 】

また、最上段連結パーツ 1 の各稜線 1 6 A ~ 1 6 D に対応する角部のうち、少なくとも 1 つの角部（本実施の形態においては、稜線 1 6 B に対応する角部）には、軸心方向に所定の間隔をおいて並ぶ複数の高さ調整用スリット 1 9 が形成されている。最上段連結パーツ 1 と中間連結パーツ 2 とのスライド操作によって中間連結パーツ 2 の連結用スリット（後述） 2 2 がいずれか 1 つの高さ調整用スリット 1 9 に位置合わせされた状態で、マイクロホン固定用スリット 1 0 を経由したコード 7 2 は、中間連結パーツ 2 の連結用スリット 2 2 から露出した高さ調整用スリット 1 9 内に挿入され、この高さ調整用スリット 1 9 の両端部まで押し込まれる（図 4（C）参照）。ここで、高さ調整用スリット 1 9 の切り口には、高さ調整用スリット 1 9 の両端部の位置に、上方向に向かう切り込みが入れられている。そして、高さ調整用スリット 1 9 の両端部まで押し込まれたコード 7 2 は、中間連結パーツ 2 の連結用スリット（後述） 2 2 の切り口によって押圧されて、これらの切り込み内にしっかりくわえこまれる。これにより、コード 7 2 がこれらの切り込みに把持されるため、高さ調整用スリット 1 9 からのコード 7 2 の抜け出しが防止される。

【手続補正 6】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 2 2

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 2 2 】

また、それぞれの高さ調整用スリット 1 9 の上側において、最上段連結パーツ 1 の稜線 1 6 B に対応する角部が、それぞれの高さ調整用スリット 1 9 に対して斜めに切り落とされ、それぞれの高さ調整用スリット 1 9 のスリット幅が、最上段連結パーツ 1 の稜線 1 6 B 側において広げられている。このため、最上段連結パーツ 1 の稜線 1 6 B に対応する角部から、いずれの高さ調整用スリット 1 9 においても、コード 7 2 を高さ調整スリット 1 9 の内部へスムーズに案内することができる。

【手続補正 7】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 3 0

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 3 0 】

その後、図 3（B）に示すように、音響特性測定用マイクロホン 7 の筐体台座 7 1 の角部 7 4 A ~ 7 4 D がマイクロホン保持スリット 1 5 A ~ 1 5 D の一方の端部（稜線位置の端部）からマイクロホン保持スリット 1 5 A ~ 1 5 D の内部に入り込む方向 A に音響特性測定用マイクロホン 7 を軸心周りに回転させて、音響特性測定用マイクロホン 7 の筐体台座 7 1 の側面をマイクロホン保持スリット 1 5 A ~ 1 5 D の他方の端部の切り口に接触させる。これにより、音響特性測定用マイクロホン 7 の台座角部 7 4 A ~ 7 4 D がマイクロホン保持スリット 1 5 A ~ 1 5 D に保持される。このとき、図 3（D）に示すように、各マイクロホン保持スリット 1 5 A ~ 1 5 D の切り口に形成された三角形の切り込み 1 2 A ~ 1 2 D に音響特性測定用マイクロホン 7 の筐体の凸部（角錐形状の筐体の稜線部）が係合し、これにより 音響特性測定用マイクロホン 7 のがたつきが防止される。

【手続補正 8】

【補正対象書類名】 明細書

【補正対象項目名】 0 0 3 1

【補正方法】 変更

【補正の内容】

【 0 0 3 1 】

さらに、図 3 (C) に示すように、音響特性測定用マイクロホン 7 のコード 7 2 を、マイクロホン保持スリット 1 5 A の位置から、音響特性測定用マイクロホン 7 を回転させた方向 A と同じ方向に巻きまわして、最上段連結パーツ 1 のマイクロホン固定用スリット 1 0 内部に押し込む。これにより、図 3 (D) に示すように、音響特性測定用マイクロホン 7 のコード 7 2 は、最上段連結パーツ 1 のマイクロホン固定用スリット 1 0 の両端部にくわえこまれた状態で固定される。ここで、音響特性測定用マイクロホン 7 の筐体台座 7 1 の側面をマイクロホン保持スリット 1 5 A ~ 1 5 D の他方の端部の切り口に押し付ける方向 A に音響特性測定用マイクロホン 7 のコード 7 2 が巻きまわされているため、音響測定用マイクロホン 7 の逆まわりが阻止されて、マイクロホン保持スリット 1 5 A ~ 1 5 D からの音響特性測定用マイクロホン 7 の脱落が防止される。

【 手続補正 9 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 0 3 2

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 0 0 3 2 】

図 4 (A) に示すように、最上段連結パーツ 1 の下端部を中間連結パーツ 2 の上端部内側に軸心方向に挿入して、中間連結パーツ 2 の連結用スリット 2 2 を、マイクロホンスタンド 1 0 0 の目標高さに応じた高さ調整用スリット 1 9 に位置合わせし、この高さ調整用スリット 1 9 を露出させる。そして、最上段連結パーツ 1 のマイクロホン固定用スリット 1 0 から引き出された音響特性測定用マイクロホン 7 のコード 7 2 を、中間連結パーツ 2 の外側から、連結用スリット 2 2 を介して、中間連結パーツ 2 内側の最上段連結パーツ 1 の高さ調整用スリット 1 9 内部に押し込む。これにより、図 4 (C) に示すように、最上段連結パーツ 1 のマイクロホン固定用スリット 1 0 に固定されたコード 7 2 が、中間連結パーツ 2 の外側から連結用スリット 2 2 を通過して、中間連結パーツ 2 内側の最上段連結パーツ 1 の高さ調整用スリット 1 9 に固定されるため、中間連結パーツ 2 に対する最上段連結パーツ 1 のスライドが阻止される。

【 手続補正 1 0 】

【 補正対象書類名 】 明細書

【 補正対象項目名 】 0 0 4 5

【 補正方法 】 変更

【 補正の内容 】

【 0 0 4 5 】

図 5 (C) に示すように、最上段連結パーツ 1 A のいずれの高さ調整用切り込み 1 9 A に中間連結パーツ 2 A のスリット 2 2 A が位置合わせされた状態において、スリット 2 2 A により切断された中間連結パーツ 2 A の角部を、スリット 2 2 A よりも下側の位置で、最上段連結パーツ 1 A の高さ調整用切り込み 1 9 A の内部に向かって押し込むと、中間連結パーツ 2 A の側面 2 4 B、2 4 C が 2 本の折り山ライン 2 5 で折れ曲がる。これにより、スリット 2 2 A の縁部が中間連結パーツ 2 A の内側に突き出して、中間連結パーツ 2 A の角部が最上段連結パーツ 1 A の高さ調整用切り込み 1 9 A に挿入される。これにより、最上段連結パーツ 1 A の高さ調整用切り込み 1 9 A の切り口の V 字状の谷部に、V 字状に折れ曲がった 2 本の折り山の裏側が係合するため、最上段連結パーツ 1 A と中間連結パーツ 2 A とがロックされる。ここでは、最上段連結パーツ 1 A に高さ調整用切り込み 1 9 A を高さ方向に複数形成し、中間連結パーツ 2 A の上端部にスリット 2 2 A を一つ形成しているが、これに代えて、中間連結パーツ 2 A にスリット 2 2 A を高さ方向に複数形成し、最上段連結パーツ 1 A の下端部に高さ調整用切り込み 1 9 A を一つ形成して、最上段連結パーツ 1 A の高さ調整用切り込み 1 9 A 内に中間連結パーツ 2 A のいずれかのスリット 2 2 A の縁部が折り込まれるようにしてもよい。

【 手続補正 1 1 】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0048

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0048】

100：マイクロホンスタンド、 1、1A、2、2A、3：連結パーツ、 4A、4B：ベースパーツ、 5：支柱部、 6：ベース部、 7：音響特性測定用マイクロホン、 10：マイクロホン固定用スリット、12A～12D：切り込み、 13：切り込み、 14A～14D：側面、 15A～15D：マイクロホン保持スリット、 16A～16D：連結パーツの稜線、 17A～17D：連結パーツの側面の中心線、 18：コード挿入用スリット、 19：高さ調整用スリット、 22、29、32：連結用スリット、 24A～24D：連結パーツの側面、 25：折り山、 26A～26D：連結パーツの稜線、 41：ベースパーツの差込部、 42：ベースパーツの脚部、 71：音響特性測定用マイクロホンの筐体台座、 72：音響特性測定用マイクロホンのコード、 73：音響特性測定用マイクロホンの筐体の稜線、 74A～74D：音響特性測定用マイクロホンの筐体台座のコーナ部